

* これらはあくまで例示であり、より重点化したり、より端的にする記載したりすることも考えられますので、目標に照らして、観点別の評価を行う上で必要な要素が盛り込まれていれば、語順や記載の仕方は必ずしも例示の通りである必要はありません。

外国語科学習指導案（例）

□はスペース（全角1マス）を示す。

〇〇〇 高等学校
指導者 〇〇 〇〇

- 1 □履修単位数 〇単位
2 □実施日時 令和〇年〇月〇日（〇） □第〇時限
3 □学 級 〇HR（〇名）
4 □使用教科書 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇（出版社名）
5 □単 元 名 Unit〇□〇〇〇〇〇〇〇〇

- 6 □本単元で扱う領域における「CAN-DOリスト形式」による学習到達目標（第〇学年）

聞くこと	読むこと	話すこと [やり取り]	話すこと [発表]	書くこと
本単元で扱う領域を太枠で囲む。ただし、「論理・表現」の場合は「話すこと [やり取り]」「話すこと [発表]」「書くこと」の三つの領域のみを扱うため、「聞くこと」及び「読むこと」の枠は削除する。				
各校で定めている「CAN-DOリスト」を記載し、学習到達目標との関連を明確にする。				

- 7 □単元設定の理由

この単元で、どのような資質・能力の育成を目指すのかを明確に記述する。

○教材観

- 本単元は、（単元の内容、教材の特性など）・・・・・・・・・・・・・・・・・・
□□・・内容となっている。
□□□言語材料としては、（言語材料がどのように用いられているかなど）・・・・・・・・
□□・・適した内容となっている。
□□□したがって、（どのような力を付けることができると考えられるかなど）・・・・・・・・
□□・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・する力を養うことができるものとする。

○生徒観

- 本学級の生徒は、（単元につながるこれまでの学び、学習経験や実態、課題など）・・・・
□□・・適した内容となっている。
□□□そこで、（本単元で生徒に身に付けさせたい資質・能力など）・・・・・・・・
□□・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・する力を養いたい。

○指導観

- 本単元は、（教材観や生徒観〔生徒の課題〕を踏まえた上で、単元のねらいに迫るための指導
□□上の手立てや工夫など）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
□□・・適した内容となっている。
□□□そこで、言語活動として、（主な言語活動の内容、工夫など）・・・・・・・・
□□・・・・・・・・・・・・・・・・・・を通して、〇〇ことと〇〇との技能の統合に焦点を当てた指導を行う。
□□単元終末の言語活動として、・・・・・・に向けて・・・・・・もらうために、・・・・・・をし、
□□・・・・・・をする。・・・・・・をすることで、・・・・・・したい。

コミュニケーションを行う必然性のある目的や場面・状況の設定を工夫し、言語活動を通してコミュニケーションを図る資質・能力を育成するようにする。

『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 高等学校 外国語』（令和3年8月 国研）を参考に、単元の目標や評価規準等を作成する。以下、8～10は、上記参考資料の事例1を参照。

8 □ 単元の目標

- □ 聞き手に自分の考えをよく理解してもらえるように、社会的な話題（環境）について、聞いたり
□ 読んだりしたことを基に、情報や考えなどを理由とともに話して伝えることができる。

資質・能力の三つの柱に分けず、一文の能力記述文（「～できる。」）で目標を示す。

9 □ 単元の評価規準（「話すこと [発表]」の評価規準）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
〈知識〉 情報や考えを述べるために必要となる語彙や表現、音声を理解している。 文末「～を理解している」 〈技能〉 社会的な話題（環境）について、<u>情報や考えを理由とともに話して伝える技能を身に付けている。</u> 文末「～技能を身に付けている」	<u>聞き手に自分の考えをよく理解してもらえるように</u>、社会的な話題（環境）について、<u>情報や考えを、聞いたり読んだりしたことを基に、理由とともに話して伝えている。</u> 文末「～している」	<u>聞き手に自分の考えをよく理解してもらえるように</u>、社会的な話題（環境）について、<u>情報や考えを、聞いたり読んだりしたことを基に、理由とともに話して伝えようとしている。</u> 文末「～しようとしている」

※ 目的等 話題
 内容 言語材料

※表記の方法は参考資料の事例2～5も参考にすること。

10 □指導と評価の計画（7時間）

1つの言語活動で基本的
には3つの観点を一体的
に評価する。

1 1 □本時の活動（第7時）

「単元の目標」、「指導と評価の計画」との整合性を図ること。

（1）目標

- 海洋ごみの問題について自分を取り上げる課題を説明し、その改善のために自分ができること
□を、理由を含めて話して伝える。

（2）展開

時間	学習活動	指導上の留意点	学習活動における 具体の評価規準	評価方法
○分	1 □挨拶をし、本時の □目標について知る。	・全体に挨拶をし、個別に数名 □の生徒とやり取りをする。		
	（生徒に提示する目標） To talk about one of the marine debris problems and what you can do to solve it with reasons.			
○分	2 □前時の復習をする。			
○分	3 □（例）～する。 ～知る。 ～表す。			
○分	4 □			活動観察
○分	5 □目標の達成状況を □振り返り、課題を明 □確にする。			

具体的なゴールがイメージできるような表現で提示する。

1人1台タブレット端末等をメインで活用した場面を
太字で記入し、枠で囲む。

表現の領域(話すこと[やり取り]、話すこと[発表]、書くこと)
の評価においては、基本的には3つの観点を一体的に見る。

知
思
態

「おおむね満足できる」状況(b)を実現した生徒が、更に質的な深まりや高まりをもっている姿を具体的に想定
して記述する。その際、評価がぶれないように、(b)基準をしっかりと設定しておくことが大事である。

（3）評価及び指導の例（「話すこと [やり取り]」）

「十分満足できる」と判断され る状況(a)	している。
「おおむね満足できる」状況(b) を実現するための具体的な指導	できるよう支援する。
「努力を要する」状況(c)と判断 した生徒への事後指導	し、.....よう個別支援を行い、.....しながら 「おおむね満足できる」状況(b)を達成できるようにする。

指導の手立てを具体的に想定して記述する。

【参考資料】

- ・「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 外国語編 英語編」 文部科学省 平成30年7月
- ・『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」 国立教育政策研究所 令和3年8月